

ばんけい

教育ほつとにゅーず

かわら版

こ みち  
教育の小径 No.190

2024 August

8月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

果報は寝て待て

幸運は人の力ではどうすることもできないものです。じたばたしないで静かに時機が来るのを待っていればよいということです。

## 教師も有意義な夏休みを

- 学校における「夏休み」は、普通子どもたちに対していわれています。この期間に教師が取得する夏季休暇や年次休暇は貴重な夏休みです。
- 夏休みには、日ごろできないことに挑戦し、自分のために有意義に過ごします。夏休みは9月に向けた充電期間です。

## 夏休みは子どもだけのものか

かつては、一般の人たちから「学校の先生は長い夏休みがあっていいですね」と羨ましがられました。夏休みは子どもたちが登校せず、授業も実施されませんから、日直やプール指導、林間学校など特別な仕事以外のことは何もしていないと受けとめられ、毎日が休みのように思われていたようです。

教師にはある時期まで自宅などで研修することが認められていました。夏休みは教師にとって教材研究や自己研修を行う絶好の機会でした。

その後、「夏休みは子どもたちに与えられているもので、教師は勤務期間だ」とされました。夏休みといわれる夏季休業日に、従来の行事に加えて、保護者との面談や相談、補習などの個別指導、教育委員会の研修などが実施されるようになりました。その結果、夏休みといえ、教師にとって多忙な時期になってしまいました。

近年働き方改革が叫ばれ、学校や教師にも求められるようになりました。「夏休みは子どもたちのためにある」という固定した考え方が改められ、教師も夏休みをしっかりと取るようにとの風潮が広がってきました。とてもよい傾向です。ここでいう教師の夏休みと

は夏季休暇や年次休暇を指します。

休暇は働く者に与えられた権利ですから、それを正当に行使用することは重要なことです。厚生労働省も年次休暇の行使を推奨しています。

できるだけ長期の休暇を取りやすくするために、すでに教育委員会の研修などの行事を精選したり、学校を一斉に閉庁にしたりするなどの工夫が行われています。学校としても、教師間で調整し合い、夏季休業日が取りやすい体制を整える必要があります。

教師にとっての夏休みとは何か。なぜ必要なのかについて、校内で議論してみるのもよいでしょう。

## 夏休みの有効活用のポイント

いうまでもなく、教師にとっての夏休みはプライベートな時間です。どのように活用するかを他人に公表したり他人が立ち入ったりする問題ではありません。それだけに当人が目的意識をしっかりとって過ごすことが求められます。夏休みをとることが目的ではなく、その期間を自分や家族のためにいかに有効に活用するかが重要です。

まず、有効に活用するためのポイントのひとつは、日ごろの仕事から離れることです。ONからOFFへの切り替えをしっかりと行うことです。どうし

ても子どものことや授業のことなど学校や仕事のことを頭から離れないといいますが、そこは思い切って割り切ることが大切ではないかと思います。

次のポイントは、自分の趣味や関心事、家庭や家族のことなど、プライベートな自分に目を向けることです。日ごろからやりたいと思っていても、十分な時間が取れなかったりして、できなかったりしたこともあるでしょう。それらに挑戦し、自分や家族、地域の人のために時間を使うことです。

例えば、長文の読書や長期の旅行、キャンプや登山、ハイキング、ドライブ、美術館めぐり、音楽演奏や鑑賞などがあります。ボランティア活動を行うのもよいでしょう。日程と費用を考え、新しいことに挑戦する意欲と、一歩を踏み出す勇気が必要です。

いまひとつは、計画を立て準備をすることです。あれもこれもに目が移って虻蜂取らずにならないように今年の目的や目標を焦点化します。夏休みが終わったとき「今年の夏休みは充実していた」「日ごろできなかったことに挑戦できた」などと満足感と達成感を味わうことが何より重要です。

心と体のリフレッシュは、その後の仕事の充実につながります。夏休みは9月からの教育活動に取り組む意欲とエネルギーを蓄える充電期間です。

8月

今月の記念日

22日

チンチン電車の日

明治36年(1903年)のこの日、東京の新橋と品川の間で初めて路面電車(チンチン電車)が走りました。路面電車の日は6月10日です。

## 夏休み中の絆づくり

夏休みは約40日にも及ぶ長期の休み（休業日）です。そのため、子どもたちと教師との意思の疎通が疎遠になりがちです。「夏休み期間は子どもを家庭に帰したのだから、教師は関わる必要がない」との考えもありますが、やはり夏休み期間であっても、子どもたち一人一人との絆はしっかり保っておきたいものです。

夏休みに一斉登校日や学年登校日を設けている地域や学校もありますが、近年設けていない学校が増えてきました。プール指導の場では、自由参加ということもあって、すべての子どもと顔を合わせることはないようです。

子どもたちとの関係が疎遠になりがちな夏休みに、「先生は、夏休みでもみんなが元気で過ごしているか、いつも心配しているよ」「2学期からみんなが元気で学校に通ってくることを楽しみにしています」といった、教師の思いや願いをメッセージとして伝えることは、子どもたちを勇気づけることにつながります。夏期休業期間の学級経営という意味合いもあります。

これまで不登校がみだつ子どもや病気などで休んでいた子どもなど、日ごろから特に気になっている子どもには、電話をかけたり、家庭を訪問したりするとよいでしょう。また、わが国の伝統文化である暑中お見舞い（または、残暑お見舞い）というかたちで、一人一人に葉書を出したり、1人1台のパソコン端末にメールを発信したりする方法もあります。

夏休み中の子どもとの絆づくりは、9月からの学級経営を充実させ、教育活動や授業をスムーズに展開させるための重要な取り組みだといえます。

## 年間授業時数の適正化

文部科学省は、令和4年度教育課程の編成・実施状況調査の結果に関連して、年間総授業時数が学校教育法施行規則に示されている標準授業時数を大きく上回っている学校が一定数あると公表しました(令和5年4月)。

令和3年度の実績をみると、例えば小学校5年の場合、年間の標準授業時数は1,015単位時間ですが、全国平均が1,059.9単位時間で、45単位時間も上回っていました。内訳をみると、1,051~1,085単位時間が全体の33.8%でもっとも多く、次いで、1,016~1,050単位時間が23.6%でした。

こうした実態を踏まえて、文科省は児童生徒の実態を踏まえつつ、各学校の指導体制に見合った授業時数を設定することを求めています。また、災害や学級閉鎖など不測の事態に備えることを意識して標準授業時数を大幅に上回ることは必要ないとしています。学校の働き方改革に配慮することも求めています。

これらは、学習指導要領の一部改正に関連して平成15年12月に示した通知の「年間授業時数の標準を上回る適切な指導時間を確保する」ことを求めた内容を修正したものです。

なお、本調査は令和4年12月~翌年1月に、公立小学校等から無作為に抽出された1,235校に、Web回答を求めたものです。



## 先人の残した言葉

10

林 竹二

### 教師の根本の仕事は、むしろ学ぶことだ

この言葉は、林竹二の著作集7『授業の成立』において、「授業の成立についての覚え書き」のなかに登場してきます。林は、1906年(明治39年)に栃木県矢板市に生まれました。斎藤喜博の影響もあって授業に高い関心をもっていました。宮城教育大学の学長に就任したあと、全国を行脚して、小中学校で授業を行った教育実践家としても知られています。

教師の仕事は一般に子どもたちを教えることだと受けとめられています。ところが、林は先の論文のなかで「教師は教えることの専門家であっては困る」と、逆のことをいっています。また「教師は教える気がかりあって、学ぶことが実に下手だ」とも厳しく指摘しています。さらに「教師が不断に学ぶ意思をもち、能力をもっているでなければ、子どもの学習をきびしく組織

することなど、できるはずがない」とも述べています。

また林は、まずは教師自身が教える内容を学ぶことの大切さを根本に据えることが大切であると、教材研究を重視していました。そうでなければ「自分のうちに動機をもつ授業にはならない」といっています。教師自身が学ぶことを実地に体験することで、授業の質が変わることを林は期待していました。

林は、教師の教材研究として、教材開発を経験することの重要性を指摘しています。子どもたちが学ぶ対象である「教材」を重視していたのです。

近年、「学び続ける教師のみ、教える資格がある」という教師論がいわれています。このことに通じるものを林の言葉から感じとることができます。

## INFORMATION

ご注文は文溪堂代理店まで！

### てのひら文庫

文部科学省  
後援

9/20  
締切必着

「てのひら文庫賞」読書感想文 全国コンクール 作品募集!

子どもたちの小さなてのひらに載せられ、あたためられ、随所に持ち運ばれ、そして、くい入るように読破してもらいたい—そんな願いがこめられた読書教材です。

- 総監修/児童文学作家 石森 延男
- A5判 16~28ページ 4色・1色
- 1~6年 各12冊
- 学校納入定価 1冊200円(税込)



「教育の小径」のすべてのバックナンバーを文溪堂ホームページからお読みいただけます。

お知り合いの先生にもお勧めください。



ぶんけい 教育の小径 検索

## 編集後記

先生の働き方改革が注目を集める中、今号では「教師も有意義な夏休みを」と題してご執筆をいただきました。児童・先生を問わず、次のステップへ進むためのリフレッシュやインプットの時期であるという趣旨に、大いに感じ入りました。この8月号は、夏休みの前に先生方にお読みいただけるよう、例月より早めにお届けいたします。(H記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2024年8月1日